

## 式 辞

令和2年4月8日

埼玉県立熊谷女子高等学校長 浅海 純一

ただいま、入学を許可いたしました320名の皆さん、入学おめでとございます。私たち教職員そして在校生一同、皆さんの入学を心から歓迎いたします。

世界中を巻き込んだ感染症対策の中での、入学式となりました。本日は、このような形で、お祝いしなくてはならないこと、大変心苦しく、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

さて、本校は県下有数の伝統校であります。この学び舎を巣立った卒業生は、すでに三万六千名を超え、多くの先輩たちが政治・経済・文化・教育など、幅広い分野で活躍されています。皆さんは、こうした伝統と、誇り高い本校の生徒として、その第一歩を踏み出すことになります。

しかしながら、中学校卒業前後から今日まで長期にわたり、授業を含め学校生活に制限がかかった状況が続いています。この先についても、ウイルスという見えない敵との戦いであり、不安要素がたくさんあります。この状況だからこそ、皆さんには、今を「ピンチはチャンス」と捉えて欲しいと思います。

皆さんは、本校に入学することで、その夢が成就されたわけではなく、大学などの上級学校へ進学すること、さらにその先にも大きな夢や目標を持っていることと思います。学生の本分は、まずは勉強です。先ほど申し上げたとおり、今の状況を「チャンス」と考え、主体的に学ぶ姿勢の獲得に取り組んでください。

「主体的に学び」ということは、不便な環境の中から生まれるとも言われます。この後、臨時休業に入る皆さんには、担任の先生からガイダンスがあります。学校から出される課題をこなすことは勿論ですが、自分の弱点の補強に取り組むことや、逆に強みを伸ばす工夫を自ら進んで考えてください。この自由度の高い期間をどう過ごすかは、今後の皆さんにとっては、大変重要となってくることでしょう。

「ピンチはチャンス」、不便さを悲観することなく、チャンスに繋げていきましょう。勿論、「メリハリを付けること」は、大切です。ストレス発散の為に、体を動かすこと、余暇を楽しむことも忘れずに行いましょう。

そして、ウイルスとの戦いが終息した暁には、勉強に限らず、部活動や学校行事にも、ここに居る全ての皆さんが全力で取り組み、貴重な高校生活を笑顔一杯で、過ごしていただけることを心から望んでおります。その日までもう少しの辛抱です。一緒に頑張りましょう。

ここで、保護者の皆様にも、申し上げます。

本日は、お子様のご入学、誠におめでとうございます。皆さんとともに、お祝い出来ないことは、痛恨の極みであります。

本日、大切なお子様を確かに預かりました。お子様がこれからの三年間で、学力のみならず、人格面、体面でもしっかり成長できるよう、教職員一同、全力で指導に当たってまいります。

保護者の皆様には、本校の教育方針や指導について、是非ともご理解をいただき、お子様のために、今何をすることが最良なのかを、共に考えて参りたいと思っております。

それでは、新入生の皆さんが決意を新たに、充実した高校生活を送られることを心から願い、私の式辞といたします。